

平成 26 年度第 3 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 27 年 3 月 7 日（土）10：00～11:15

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

加藤 正彦氏（泉北高等学校元校長）、中村 俊一（立志館ゼミナール 館長）、田米 直美（泉北高校後援会 会長）、兵野 寿江氏（泉北高等学校 PTA 会長）

4 挨拶 校長

- ・ 本年度の学校経営計画の目標は概ね達成できていると思うが、学習時間の向上がやや不十分であった。
- ・ 理科教育や英語教育の改革は概ね計画通りであり、SSH の研究開発ではよい評価を受けることができた。

5 事務局からの報告及び協議

① 分掌、学年、教科の今年度の目標達成状況について（教頭）

- ・ 平成 26 年度学校経営計画及び学校評価において、自己評価では概ね目標が達成されたと考えている。
- ・ 確かな学力への取り組みは設定通りの目標が達成できたと思う。一部結果待ちの部分はあるが、TOEIC Bridge や TOEFL のスコアはもう少し向上の余地がある。
- ・ 広報について、目標は達成されたと考えているが、保護者への情報提供などを、来年度の課題として取り組みたい。
- ・ 遅刻数の減少について目標を達成できず、来年度しっかり取り組みたい。
- ・ 本校のスクールカウンセラーによる教員のカウンセリング能力向上のための研修会を計画していたが、登校に悩む生徒が複数おり、スクールカウンセラーがその対応にあっていたこともあり、時間的な余裕がなかった。来年度は外部の方に講師を依頼するなど工夫して実施したい。
- ・ 遅刻数は府立高校では 3 番目に低い結果であったが、遅刻が増加したことは来年度に向けての大きな課題と考えている。担任と生徒との関係性を密にしながら、遅刻数を減少させていきたい。

（委員） 3 年生に遅刻する生徒が増えるという傾向がありますか。

→ （学校） 進学する生徒が多い学校の特徴であるが、本校でも同様に 3 年生の遅刻は増える傾向がある。

（委員） 他校の実践で、3 年生が登校したくなるような魅力的な講習を実施している例があるが、泉北ではそういった取り組みはあるか。

→ （学校） センター試験までは通常の授業を行い、センター試験後は午後の授業に講習を実施している。講習はきちんとくるが、授業への遅刻が見ら

れる。

(委員) センター試験時期の子供が精神的にプレッシャーなどがあり、通常の授業に対する動機が低くなってしまったことは現実にある。その一方で、2月に実施された講習には参加していたということもあった。

- ・平成27年度学校経営計画及び学校評価では、英語力指標をTOEICからTOEFLに移行させていくように変更している。
- ・ユネスコスクールに認定されたことを受けて、来年度の経営計画にも反映させて、取り組みを始める予定である。

② 学校自己診断アンケート（生徒・保護者・教職員）結果について（山本浩）

- ・家庭学習の不足については生徒、保護者、教職員共通の認識があるように思われる。

(委員) 第2体育館の雨漏りが大変ひどく、授業も雨のためにできなかったことがあったと聞いている。保護者から修理の要請をしたいと考えている。必要最小限の安全対策をお願いしたい。

→(学校) 雨漏り補修は行ったが、あまり改善が見られなかった。全体の屋根を取り換えるなど大規模な補修をしなければ、完全にはなくなるようである。来年度も予算請求はしていきたいと考えている。

→(学校) 雨漏りは長く続いていたが、補修で3年くらいはなくなったことがあったが、また同様の雨漏りが起こるようになった。保健体育の教員としても、体育の授業で危険度が高まり心配している。

→(学校) 要望をいただくことで教育委員会への補修の働きかけに効果的であるので、ぜひ今後もお願いしたい。

(委員) トイレの匂いについては、配管を定期的に高圧洗浄で清掃を行わなければならないようだが、教育委員会は予算をだすことがない。

(委員) 悲観的になりすぎず、今後も要望を続けていくようにすればどうか。

③ 第2回授業アンケート結果について（教頭）

- ・総合的には高い評価が得られていると考えている。
- ・家庭学習（予習や復習）の不足が見られるという結果が出ている。特に、理科や国語の授業で、予習しなければ授業についていけないような仕組みを構築することが重要であると思われる。
- ・真面目に授業を受けているが、授業を通して得られるものが少ないと考えている生徒が多くいるという結果は改善すべき点であり、その改善から進学実績の向上につながるのではないかと考える。

(委員) 進路を決定するにあたり、先生方の体験談を聞いたことがとても参考になったと子供から聞いている。カウンセリングよりも先生方の体験を話していただくことが必要かもしれない。

(委員) 自分が好きな教科や好きな先生の教え方によって得られる感覚が変化するように思う。

(委員) 数値が前回から上がっているなので、取り組みの成果があったと思われる。勉強できる姿勢がついていると思うが、2年生でよい結果が得られればもっとよい成果が上がるのではないかな。

(委員) 授業の評価が高かった先生方の授業を特に若い先生方が参考にするとよい。

④ その他

- ・ スーパーグローバルハイスクールについて、校内からアイデアを募ったり議論するなどを通して内容を検討し、今年度も本校から申請をしている。近隣では三国ヶ丘高校がスーパーグローバルハイスクールに指定されており、マレーシア等で海外研修を行っている。
- ・ 3年目のSSH 開発研究について中間報告を行ったところ、73校のうち上位5校という評価を得ることができた。総合科学科の全員が、一部では選択で1年次から、課題研究を始め、3年次の6月に研究発表会を実施していることと、他教科から協力を得て全校的に取り組んでいることが評価されたのではないかと分析している。これまでの取り組みがよい評価を得られるようであれば、続いてSSHの申請を目指したい。
- ・ 学校教育支援協議会でPTAや後援会の学校への支援を一本化する体制を作った。来年度以降も校内からの要望を募り、予算を作成していきたい。継続して支援が必要な事業もあり、新規の事業への支援は難しい状況はあるが、生徒の学習環境や生徒の活動への支援が行えて感謝している。
- ・ 泉北文化講座を堺市、和泉市、狭山市の中学校及び堺市の図書館に送付している。課題研究の発表を普及する目的でも大きな役割を果たしていると考えている。
- ・ 保護者等からのメールや投書箱への意見の投稿はなかった。